

仙台市基本構想(中間案)

1 仙台の未来へ

この基本構想は、21 世紀半ばを展望して目指す仙台の将来像を掲げ、その実現に向けて市民と行政が共に取り組んでいくための指針です。

私たちは、誇るべき仙台の資産を生かし、厳しい時代環境を乗り越えて、未来に歩みを進めます。

（１）未来に生かす仙台の資産

「杜の都」仙台は、自然と調和する都市という個性、歴史的・文化的遺産、地域や市民の活動の蓄積など、さまざまな資産を生かしながら発展してきました。学都の知的資源は、国内外から人材や活力を集め、新しい価値を生む源泉になっています。東北唯一の政令指定都市として、都市機能が集積し、東北の交流と賑わいの中心となり、世界とのつながりを強めてきました。

（２）仙台を取り巻く時代環境を超えて

わが国、特に東北では人口減少や少子高齢化が進んでいます。また、地球規模で温暖化など環境問題が深刻化し、地震など自然災害の危険が高まる等、仙台を取り巻く時代環境は厳しさを増しています。

東北における仙台の比重は増し、東北の持続的な発展を支えるために果たすべき役割も増えています。都市の豊かさを向上させ、市民一人ひとりの暮らしを充実させていくためには、都市の交流機能を最大限に生かして新しい価値を創造するとともに、さまざまな主体との協働により未来に責任を持つ確かな都市経営を確立していくことが重要です。

私たちは、杜の都の先進性や未来を創る市民力など、多くの資産を生かして新しい価値を創り出し、未来への希望をつないでいきます。

2 仙台の未来を創る市民力

（１）仙台の市民力

私たちの暮らす仙台は、全国的にも地域活動や市民活動が盛んです。市民が主体となって展開する活動は、これまでもたくさんの成果を生んできました。個人や地域団体、NPO、企業などの多様な市民力は、互いに支え合い、連携し、広がりながら、さまざまな課題を解決し、都市の魅力と活力を創り出していきます。

地域で支え合う市民力

市民の暮らしを最も身近なところで支えるのは、町内会をはじめとする地域団体です。地域に根ざし、地域で支え合う市民力は、防災や防犯、子育てや介護など、今後ますます増えていく地域課題の解決に、大切な役割を果たすことが期待されます。

また、子どもたちは、家庭や学校を中心に地域の中で健やかに育っていきます。子どもたちを見守る地域の市民力は、未来の担い手である子どもたちに豊かな市民力を育てていきます。

テーマで結びつく市民力

仙台では、子育てや介護のような課題解決のための活動から、市民創造型イベントなどの文化活動、環境、国際交流、地元のプロスポーツ支援等、さまざまなテーマのもとに市民が集い、活発な活動が繰り広げられており、中には全国規模に成長しているものもあり

ます。また、学都の資産である学生がさまざまな活動に加わっており、最近では市民の生活の場である地域と連携する事例も生まれています。

暮らしの課題を解決し、都市の魅力を創り出そうとする力強い市民力は、豊かで住みよく賑わいのある都市を実現していきます。

市民意識を育む活動

企業市民と呼ばれるように、企業の社会貢献活動も広がっています。企業が支援する活動も多く、従業員がボランティア活動に参加する例も増えています。企業内で身につけた経験を、退職後に地域とのつながりの中で生かす高齢者も目立っています。

立場や経験を超えた交流は都市に多様な価値を創り出し、活動を通して得られる社会とのつながりや達成感は市民の暮らしを充実させます。こうした中から、住みよい地域づくりのために自らが進んで動く市民意識が育まれていきます。

(2) 市民力の育成と発展に向けて

これらの多様な市民力を育み発展させていくことが、仙台の未来を創る原動力となります。多くの主体が参加して市民力を育てる仕組みを創り上げていくことが重要です。

仙台の未来を創るこれからのまちづくりに向けて、市民力を新しい時代にふさわしい力へと共に育みながら、協働のまちづくりを推進します。

3 仙台の都市像

私たちは、仙台が、さまざまな市民力に支えられながら、誰もが心豊かに暮らし続けることができる都市、「ひとが輝く杜の都」でありたいと願います。そのため、仙台がこれまで育んできた都市個性を発展させた以下の4つの都市像を目指すべき将来の姿として掲げます。

(1) 「未来を育み創造する学びの都」

「学び」は人を成長させるだけでなく、人が輝き個性を発揮しながら充実して生きていくために重要な役割を果たします。誰もが学び合い、創造的に活動することで、暮らしや社会に新しい価値が生まれます。地域に多彩な学びの場があり、学びを通じて都市のさまざまな魅力を創り出していくことが大切です。

まち全体を学びの場として、仙台の歴史的・文化的遺産や地域資源を生かし、一人ひとりの創意工夫と実践により多彩な文化活動を生み出すとともに、誰もが芸術やスポーツを楽しむことができるまち

若者の力を生かして賑わいと活力を創り出し、新たな人材や情報の多様な交流により新たな価値や知的産業を創造するなど、学都の成果を市民や地域全体で享受できるまち

家庭と地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちが夢と希望を持って生きる力を育むことができるまち

創造的な環境や都市空間のなかで、さまざまな人たちが交流し、その成果の蓄積で都市の魅力が向上し続けるまち

(2) 「支え合う健やかな共生の都」

都市には多様な個性と価値観を持つ多くの市民が暮らしています。その中で、誰もが自分らしく輝き続けるためには、互いを認め合い、地域の中で支え合いながら暮らしていけることが大切です。

年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、生涯を通じて健やかに、自立して

生きがいを持ち続けることができるまち

地域の信頼を高め、子育てや介護など、共に支え合うまち

多様なまちづくりの主体が、互いに知恵を出し合い、連携することで、地域が活性化し、豊かに暮らすことができるまち

地域の共助機能を高めて、災害による被害を軽減し、犯罪を防ぎ、地域の中で安全に安心して暮らすことができるまち

(3)「自然と調和し持続可能な潤いの都」

将来にわたり持続的に発展することができるよう都市の骨格を整え、機能集約型の都市構造をつくることが課題になっています。地球環境を保全し、杜の都の良好な都市環境を未来につないでいくことが大切です。

環境負荷の小さい低炭素・資源循環型の都市づくりを進め、地球環境の保全への取り組みを事業活動や日常生活のさまざまな実践で支えるまち

水と緑のネットワークを形成し、多様な生態系を保全するなど、豊かな自然と調和した本市のライフスタイルを未来につなぎ、誰もが杜の都にふさわしい自然環境と景観に触れることができるまち

公共交通を中心とした利便性の高い交通体系に支えられた機能集約型都市の構築を進めるとともに、郊外の良好な生活環境を維持し、誰もが快適に暮らし活動できるまち

都市近郊に広がる農地や里山を保全し、農林業の多面的な機能を守りながら都市の魅力として活用するまち

(4)「東北を支え広く交流する活力の都」

仙台が東北の発展を支え先導する役割を担い、東北の優れた地域資源を連携させ、積極的に発信し、東北全体の底上げを図っていくことが大切です。内外のさまざまな交流により、新たな成長産業を生み出し、仙台の活力をさらに高めていきます。

仙台の資産を生かしながら、アジア諸国をはじめとする世界との経済交流や内外との人材交流などにより、新たな成長に結びつく価値を創造するまち

仙台の経済や雇用を支える中小企業が、さまざまな連携や技術革新により、持続的に活力を発揮できるまち

市民主導の文化イベントやプロスポーツによる賑わいの創出など、地域の新しい魅力を創り上げ活力を生むまち

広域交通ネットワークや物流拠点機能など、内外との交流の拠点となる都市機能の充実を図り、東北全体の活力を支える役割を果たすまち

4 仙台の未来に責任を持つ都市経営

厳しさを増す時代環境にあっても、未来に責任を持つ確かな都市経営を実現するため、行政運営における協働の仕組みを進めることにより、市民力を高め、地域や企業、NPOなどとの連携を強めるとともに、市民の生活の場である地域を重視し、個々の地域の特性に応じた地域政策を展開していきます。

また、市民ニーズが多様化するなか、施策の優先順位を明確にしながら事業の選択と集中を進めるほか、公共施設の総合的なマネジメントを行うなど、さまざまな取り組みを迅速に進め、市役所の自己変革を加速します。

5 総合計画の推進

この基本構想に掲げた都市像の実現に向けて、長期的な計画目標を掲げる「基本計画」と中期的な計画目標を掲げる「実施計画」を定め、基本構想と合わせて、「仙台市総合計画」と位置づけます。

基本計画・実施計画の施策の進捗状況については、分かりやすい目標を掲げるとともに、適切な評価の仕組みにより、その実効性を確保していきます。